

海濱の植物群落に於て海岸林を成すものはウバメガシ著しきも本植物ほ海岸のみならず遙に内陸の方にも多し、其他の海岸木本はハマユフ、ピラフドムラサキシキブ、ナンバンキフヂ、ハマヒサカキ、マルバシヤリンバイ、ハマクサギ、トベラ、ヒメユヅリハ、ハマゴウ等にして、ハマヂンチャウも一株あれども之は人爲によるものゝ如し、海岸砂地群落を成すものは、キノクニシホギク、アシタバ、ハマグルマ、ハマナタマメ、ツルナ、ハマオモト、ハギクサウ、ハマダイコン、アゼトウナ、ツハブキ、ハマボツス、タチウスギスマメノオゴケ、キノクニスゲ、ピラフドテンツキ、ハマエンドウ等である。

山地植物帯に於ては、暖帯林は 900-1000 m に終りて落葉闊葉樹林となり最高點大台原山 (1695 m) の頂上に達す、其主要なる要素はブナ、イヌブナ、トチ、ヒメシヤラ、ハ、ソ、アカシデ、タムシバ、シロヤシホ、コハクウンボク、ミヅメ、リヤウブ、オホイタヤメイゲツ、ヒテウチハ、オホウラジロノキにして之に混する針葉樹は下方にツガ、トガサハラ、カウヤマキ、上方にニツカウモミ、トラノヲモミ、ゴヤウマツ、あり、樹下にはハスノハイチゴ、ミカヘリサウ、ヒメバライチゴ、スマタケ、草本にはカンスケ、ユキサ、ジヤカウサウ、バイケイサウ、タマカラマツ、上方にシモツケサウ、マイヅルサウ、イハサクラ、ヤマトササあり、大台原山の頂上にはシラベ、トウヒの小林ありて下木にはオホバメギ、ホソバツルツゲ、オホカメノキ、オホヤマレンゲ等主要なるものあり、又落葉樹林の樹上には往々ツリシユスラン、オホクボシダの着生するを見るべし、大台原山頂上附近の岩生群落を成すものはコモノギク、ヒメノガリヤス、ウテフラン、タカネヌカボ、ヒカゲツ、ヂ、ノギラン、ギンロバイ、タウキ、ミツデイハガサ、オホミネコザクラ、イハギク、ミヤマタヌキラン、コイハカガミ、イハキンバイ、ダイモンヂサウ、オホシバスケ、ヒメツゲ、イハナンテン、イハヒバ、ノクワンザウ等である。

抄 録

北村四郎氏：——日本菊科植物誌前篇(京都帝國大學理學部紀要, B. 第十三卷, 1937)

本編は日本群島、樺太、千島、朝鮮、琉球、臺灣の菊科管狀花亞科(薊族、旋覆花族、蘭草族、馬蘭族)の分類學的及分布的研究なり。

菊科植物は顯花植物中、最種類に富み、北半球にては同顯花植物の畧一割を占む、我日本も亦如此し、1784年以來内外諸學者により頗る多數の種類發表されしが、次第に分類の統一を缺き、不完全品の記載は分類に大なる齟齬を來たし、同物異名少からず。菊科植物の中には腊葉室の標品のみにては其形態、生態の不明なるもの多く、

野外に於ける生體の觀察が最必要なり、従つて播種栽培せざるべからず、斯くして得たる諸形質を綜合して一の分類體系を新設せんとせば、外國の同族植物をも考慮に入るゝ必要あり、尙又各種分布の調査は主として實地の踏査に待つべきもの甚多し。

是を以て本著者は内地は勿論、樺太、朝鮮、臺灣の各地を數年に亘り採集し、各種の原品地にて多數の小系統につき生品觀察をなし、各地より多數の生苗を京都大學植物園に移殖し又播種をなし比較觀察を行ひ、邦内各大學の腊葉室を巡檢し、尙又外國の標品蒐集に力を注ぎ數年考究の結果本論文を成すに到れり。

著者は本論文に於て研究せしものは四族三十八屬三〇二種にして、此中には古來の難屬として目さるゝもの多し、即ち薊屬、薑飛廉屬を第一とし其他ウスユキサウ屬ヤマハ、コ屬、カイノカウ屬、ヤブタバコ屬、フヂバカマ屬、ヨメナ屬、ノギク屬、ムカシヨモギ屬、コンギク屬等なり。

薊族は本邦菊科中最大の族にして四亞族、十屬を含み其中薊屬は最大なり、薊屬は著者が本研究中最も心血を注ぎしものにして其貢獻亦最も大なり、本屬植物は方今世界中我日本に最も多くの種類を有するものにして長年不明裡に放棄されしものなり、種類饒多にして一般採集家が識別困難なるを以て、採集さるゝ機會少く其上銳利なる刺を有するを以て總て嫌厭され、又採集しても普通標品制作上腐敗し易くして標品は直ぐ毀損し捨てらるるを以て一層研究室に入ること少く、又本類は體の上下に於て著しく形態を異にするのみならず個體の變異も其程度大に、又頭花の生態變化は標品の上には現はれず、是を以て野外に於ける觀察は絶體に必要にして著者は生育地に於て新しく正確に觀察し、各種の苗を多年栽培して比較考究の結果種々の分類特徴を認め独自の新分類體系を設立せり、即ち薊屬を三區、十三亞區、十六節、七十八種に分類し雜種十八を擧げたり、其中大頭區は著者の新區にして、尙十三亞區、十六節、二十五種は今回新に設立せし新群なり、從來の種類にして著者により異名に降されしもの三十種、其他亞種、新變種は多數にして、又學名の誤りを訂したるもの、認識不全なる記載の訂正増補、種の内容を變更せしもの等亦甚多し。

著者は各地に採集して本屬各種の分布を正確に極めたる結果、各種の分布區域は頗る狭きことを認知せり、甲種の分布區域には其種類の個體頗る多けれども之に相似たる乙種類はなし、然るに此區域に隣接せる乙種類の分布區域には甲種は全くなし、總てかゝる相似たる種類は互に接近して分布し、其區域は重複せざるものにして、かゝる類縁植物群の分布地圖は本科中他の類縁植物群の分布地圖とも共通するものなるを認め薊屬に於ける本邦の分布區域を區分せり、就中内地は之を四分布區域に別てり、此分布地圖に合致して分布する植物群は多數ありて生物分布境界の一型を明にせ

るものなり。

薑飛廉屬は其分布區域前屬よりも廣大にして、種類頗る多きも個體數の少きものなり、著者はよく原品地にて多數の標品を集め之を四區、五亞區、七節、六十五種に分類し、從來不明にして適用を誤れるを正せるもの頗る多し、中一區、三亞區、七節は著者の新に設けたるものにして十二新種を加へ、新名を下せしもの三、新異名二十一あり、尙一區、二亞區名は從來學界より忘れられたるものを再起用せしものなり、かくして日本内地の種類は凡そ五分の四が學名の改訂をなせり。

エゾキツネアザミ屬は從來薊屬の一區たりしが、著者は之を獨立屬と認めヤマボクチ屬をタムラサウ屬より區別し、蒼求屬をセイヤウオケラ屬より區別すべき理由を明にし、各種の組合を變更、整理せり、新學名六あり、

旋覆花族は三亞族、十一屬、五十八種に分類す、著者はウスユキサウ屬に三種、カイノカウ屬に二種、ヤブタバコ屬に三種の新種を發見し、從來の種類にして著者により新異名とされしもの十七、學名の誤りを正せしもの二、外國産にして今回本邦に發見されしもの五、及び新名を下せしもの二あり。

蘭草族は三屬十五種に分つ、中四種は新品にして一は外國産のものにして本邦に發見せしものなり。

馬蘭族は亦本邦種類に富む、之を五亞族、十三屬に分類せり、就中馬蘭亞族は最も種類多く分類困難なり、著者は本群に新分類體系を設立し、ミヤマヨメナの新屬を立て之を二新區に分ち三種を含む、永く學界より忘れられたるカリメリス屬を起用しアステロメア屬を之に合する理由を明にし二新區に分ち五種を配す、かくして從來甚混亂を極めたるヨメナ群をば大整理をなし、正確なる分布と各種の形質を明にせり、馬蘭屬は六區、十一節に分類し、區中二新區、九節は著者の新に設立せしものにして新品は九あり、特にノコンギク群は從來の分類混亂を極め其間に雜種も混じて分類頗る困難なりしが、著者は専心廣く野外觀察なして、本群を精細に分類し多數の亞種、變種に區別せり、尙レヴェエー氏の多數の異名も整理し、中一種を認めたり、ノギク屬は其獨立屬たるべき理由を明にし、組合を變更し二新種を加へたり。

著者は劈頭先づ萬國命名規約の定むる所に據り菊科の二大亞科に新名を降し、本篇論ずる所の四族、三十八篇、三〇二種の中新屬としてミヤマヨメナ群を新設し、其他七新區、十六新亞區、二十六新節を立て、尙新種は六十一種にして全數の五分の一を發見し、又五十六新變種、二十新雜種を記し、新名を命ぜしもの二十、新異名は九十の多きに達せり、其努力の大なるを認むるが就中薊屬に就きては前述せし如く其周到なる努力最顯著にして、新分類體系を完成し、支那大陸に於ける該屬研究に大なる基

礎を建て、又蘆飛廉屬及びヨメナ、コンキク群分類整理は東亞大陸の本屬研究に後人の據るべき重要な指針を與へたり。

其他殊に吾人の注意をひく二三の事項を拾つて見ると

1). *Cirsium Weyrichii* MAXIM. は従來 *C. kamtschaticum* とは明かに別種なりと多年認められしを兩者は全く同一物にして廣く樺太、北海道、千島、カムチャツカに産するを定め、従來 *C. Weyrichii* の内地に産するとせられし標品を検しそれは *C. yezoense* にして内地には *C. kamtschaticum* は分布せざる事を明かにす。

2). *Cirsium japonicum* DC は MAXIMOWICZ 氏以來ノハラアザミにあてられたるが原品を再考究の結果、THUNBERG 氏の採品にして同氏は秋に本州東部に咲く植物は採集せざりしことを歴史的に確かめ、秋に東部に咲くノハラアザミは THUNBERG 氏採集せずとなし、これをノアザミに適て原品の寫真と標品の一部を外國より得てノアザミなるを決定せしこと。

3). *Cirsium chinense* GARD. et CHAMP. は我が國にては臺灣のみにて知られしが濟州島の *C. uuinervium* NAKAI. 山東半島の *C. laushanense* YABE はこれなる事を明かにし、尙内地には産せざる事、MAXIMOWICZ 氏の根が匍匐すると記載せしを訂正せること。

4). *Cirsium spicatum* MAXIM. は MAXIMOWICZ 氏が草木圖説のヤマアザミの圖に充てし以來、内外の學者は *C. spicatum* が内地に産するとなしヨシノアザミ、タイアザミ等のある形態に充てしが、*C. spicatum* の原品地に採集し其の變異を定めそれが九州の山地にあつて本州には分布せざるを示す。

5). *Cirsium Sieboldi* MIQUEL は名稱のみにて植物體は不明なりしがこれをマアザミに充て *C. Reinii* MATSUM., *C. longipes* NAKAI. をこの名稱の下に統一す。

6). *Cirsium yezoense* (MAXIM) MAKINO は従來北海道に産するを知られ植物體は久しく疑問なりしが、原品地を採集し植物體を知り東北、北陸に廣く分布するを知る。

7). *Cirsium brevicaule* A. GRAY は臺灣に産すとされしが、臺灣に産せず、その植物は *C. japonicum* var. *australe* なりとし、*Cirsium luchuense* NAKAI は *C. brevicaule* にして西表島より大島まで分布するを明かにす。

8). *Atractylodes lyrata* SIEB. et ZUCC. は従來我が國産の植物として知られしが我が國の植物ならずとなし *A. japonica* KOIDZ. 一種のみ我が國にありとなせること。

9). キクバヤマボクチは従來 *Synurus deltoides* の葉の變種として牧野氏により記載され叡山のみより知られしが、この植物は關西、九州、南鮮に廣く分布し全く *S. deltoides* とは別種なることを明にし關西にては關東、東北の *S. pungens* に代るもの

なるを示す。

10). *Saussurea nipponica* MIQUL は標品少なくして其の正體をつかみ得ず最も古き學名なるに不明のまゝなりしを原産地附近の採集にて多數の簡體について觀察しこの種の分布と形態の範圍を定め *S. kiushiana* FRANCHET., *S. higomontana* (= *S. kiushiana* FR.) HONDA, *S. yamatonus* (= *S. nipponica* MIQ.) HONDA., *S. yakushimense* (= *S. kiushiana* FR.) MASAMUNE, *S. shikokiana* MAKINO., *S. sendaica* FR. *S. tsukubensis* NAKAI (= *S. triptera* var. *Savatieri* FR.). 等を統一し其の中に亞種を區別して整理し各差別を明にす。

11). *Saussurea triptera* MAXIM. は從來明かならざりしが原産地を採集し其の變異を知り多數の種を統一し各變種内の區別を明示す。

12). *Saussurea Riederii* HERD. がカムチャツカ、北中部千島のものにしてウルブ島以南、北海道、本州、樺太のものゝ區別さるゝを新特徴により分け亞種とし多數の變種を區別す。

13). 從來オーストリアにて *Gnaphalium japonicum* とせるは *G. japonicum* に非ずして *Gn. involucratum* なる事を示し、マレイ、ハワイ、臺灣に分布することを明かにし *Gn. lineare* HAYATA, *Gn. Morii* HAYATA はこれに合するを明かすとす。

14). *Kalimeris incisa* DC. と *Kalimeris pinnatifida* KITAM. とは其の區別困難なりしを兩者を果實の形と冠毛の長さによつて改めて區別し一つは朝鮮、西日本、他は東日本に分布するを示す。

15). *Aster ageratoides* TURCZ. の群は頗る多數の小群よりなり分類困難なるを亞種に區別し其の地理的分布を示し、多數の變種を區別し其の關係を示せること等である。
(G. KOIZUMI)

雜 報

山龍眼科 (Proteaceae)

山龍眼科植物は現世では Australia 大陸に盛大なる分布をしてるが第三紀には、もつと大なる分布をしてゐたもので歐洲の上部白堊紀の Cenoman 世にも *Dryandra*, *Proteophyllum*, *Proteopsis* 等があつた。

コブシの化石

コブシ (*Magnolia Kobus* REID?) は第三紀中新世には歐洲にも分布してゐた由。

翼齊墩果屬 (Pterostyrax) の第三紀分布

本屬は現世唯東亞に限れども第三紀中新世には遠く歐洲までも分布してゐた、 Y.